特別寄稿論文

# 社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決を図る社会科学習

文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官　小倉　勝登

## １　小学校社会科学習の大前提

**小学校**社会科の目標に、小学校社会科がどのような学習を通して、資質・能力を育成するのか、育成する課程が示されている。つまり、目指す社会科の学習像が描かれている、ということである。ここで、注目するのは、目標の最初に示されている**柱書の部分**である。

> **社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，**グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
> (1)　地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
> (2)　社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
> (3)　社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。
> （強調、二重線、破線は筆者による）

柱書に示されている「**社会的な見方・考え方を働かせ**」とは、社会科における見方・考え方を示している。ここで言う社会科とは、小学校と中学校を合わせて社会科として表現している。つまり、社会的な見方・考え方とは、小学校社会科の見方・考え方である社会的事象の見方・考え方、中学校社会科の見方・考え方である社会的事象の地理的な見方・考え方、社会的事象の歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方の総称である。小学校社会科においては、「**社会的事象の見方・考え方**」ということになる。

次に、柱書に示されている「**課題を追究したり解決したりする活動を通して**」とは、教科の特質に応じた学習活動を示している。小学校社会科において考えれば、これは、「**問題解決的な学習**」ということになる。

このように読んでいくと、小学校社会科の学習は、

> **社会的事象の見方・考え方を働かせ，問題解決的な学習を通して，**
> グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

と示されていることがわかる。つまり、小学校社会科は、目標⑴⑵⑶で示されている資質・能力を育成するためには、「**社会的事象の見方・考え方を働かせ，問題解決的な学習を通す**」ことが大前提と言うことになる。

さらに、学習指導要領では、資質・能力の育成のためには、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が重要であることが記されている。小学校社会科においては、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、端的に言えば、「**問題解決的な学習過程の充実**」と言うことができる。これを実現するには、子供が社会的事象から学習問題を見いだし、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新た

な問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。つまり、社会科固有の学びのプロセスを一層充実させることが求められている、ということである。

今回は、そのプロセスの中で特に、「**社会的な見方・考え方を働かせ**」ることに焦点をあてて説明する。

**２　社会的事象の見方・考え方を働かせる**

教師が授業デザインをする時に考えなければならないことは、この内容（単元）で、「**どのような社会的事象の見方・考え方を働かせるのか**」ということである。教師が**「単元で考える」**ためには、この内容（単元）で、単元を通して「**どのような社会的事象の見方・考え方を働かせ**」、社会的事象の特色や意味を理解するのか、イメージしておく必要がある。

**⑴　社会的事象の見方・考え方**

社会的事象の見方・考え方は、

> 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。
> 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　社会編　平成 29 年７月　文部科学省　p.18

さらに、社会的事象の見方・考え方は、

> 「位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して（視点），社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）」　小学校学習指導要領解説社会編　p.18

と考えられ，これらは，中学校社会科の各分野の学習に発展するもの、と説明している。このことから、私たちが、社会的事象を捉えて、その社会的事象のもつ特色や意味を考えていく時の「視点や方法」ということができる。

つまり、私たちがある社会的事象と出合い、その社会的事象のもつ特色や意味、本質のようなものを捉える時に、「**どこを見たらいいのか**」「**何を見たらいいのか**」という着目する「視点」と「**どのように考えたらいいのか**」という「方法」である、ということができる。整理すると、下のようになる。

> **○小学校社会科の見方・考え方は、「社会的事象の見方・考え方」である**
> 位置や空間的な広がり　　時期や時間の経過　　事象や人々の相互関係など
> に着目して（視点），社会的事象を捉え，
> 比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法）

ここで、確認しておきたいのは、社会的事象の見方・考え方は、そのものが資質・能力ではなく資質・能力【⑴⑵⑶三つの柱】全体にかかわるものである、ということである。あくまでも「社会的事象の特色や意味などを考える」ことや社会に見られる課題を把握して、社会への関わり方を選択・判断する」ために、子供たちが「働かせるもの」ということである。

**⑵　社会的事象の見方・考え方を働かせる**

「社会的事象の見方・考え方を働かせる」とは、解説には、以下のように示している。

> 視点や方法を用いて，社会的事象について調べ，考えたり，選択・判断したりする学び方を示している。　小学校学習指導要領解説社会編　p.18

さらに、解説では、「社会的事象の見方・考え方を働かせる」ことについて、以下のように例示して、説明をしている。

> 「どのような場所にあるか」，「どのように広がっているか」などと，
> 　　分布，地域，範囲（位置や空間的な広がり）などを問う視点から，
> 「なぜ始まったのか」，「どのように変わってきたのか」などと，

起源，変化，継承（時期や時間の経過）などを問う視点から，
「どのようなつながりがあるか」，「なぜこのような協力が必要か」などと，
工夫，関わり，協力（事象や人々の相互関係）などを問う視点から，
**それぞれ問いを設定して，**
社会的事象について調べて，その様子や現状などを捉えることである。
また，どのような違いや共通点があるかなどと，比較・分類したり総合したり，どのような役割を果たしているかなどと，地域の人々や国民の生活と関連付けたりする方法で，**考えたり選択・判断したりすることなどである。**

これを基に整理すると、「社会的事象の見方・考え方を働かせる」とは、

（位置や空間的な広がり）（時期や時間の経過）（事象や人々の相互関係）
などを問う**視点**から、**それぞれ問いを設定して**、
社会的事象について**調べて**、**その様子や現状などを捉えること**であり、
比較・分類したり総合したり、
地域の人々や国民の生活と関連付けたりする**方法**で、**考えたり選択・判断したりすること**

ということができ、**視点に着目して、問いを設定して調べること**、**比較・分類・総合・関連付けなどをして考えたり選択・判断したりすること**、そのような学び方と捉えることができる。さらに、「社会的事象の見方・考え方を働かせる」ためには、「問い」がとても重要になってくることがわかる。解説では、「教師が教材や資料を準備する際には，こうした視点や方法に基づいて，問いを意識することが大切である。」（P. 19）と説明している。

具体的に、【第３学年⑵「地域に見られる販売の仕事」】を事例として、実際の学習指導要領の記載と解説を参考に説明する。

学習指導要領の記載事項を読み、次に解説を読む。解説には、この内容において、着目した問いの設定例や関連付けて考えるなど、どのように考えるのかの例が、社会的事象の見方・考え方を働かせる具体例として示されている。それを読み取ることがまず大切である。解説を参考に、この単元における「社会的事象の見方・考え方を働かせる」学び方である**「〇〇に着目して問いを設けて調べ、〇〇と〇〇を関連付けて考える」**ことについて、読み取る。例えば、読み取ったことを次頁で示すような整理を行い、具体的なイメージをもつことが大切である。

| **学習指導要領の記載事項「〇〇に着目して」** | **解説の記載事項・問いの例「例えば、〇〇などの問いを設けて」** |
|---|---|
| 消費者の願いに着目して | 「消費者はどのようなことを願って買い物をしているか」 |
| 販売の仕方に着目して | 「商店の人は消費者の願いに応え売り上げを高めるためにどのような工夫をしているか」 |
| 地域や外国との関わりに着目して | 「商品や客はどこから来ているか」 |
| **解説の記載事項例「〇〇と〇〇を比較・分類・総合・関連付けして考える」** | |
| 販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けて考える | |

資料Ｉ：【第３学年⑵「地域に見られる販売の仕事」】について、
学習指導要領の記載事項と解説を読んで「〇〇に着目して問いを設けて調べ、〇〇と〇〇を比較・分類・総合・関連付けして考える」ことを整理する。

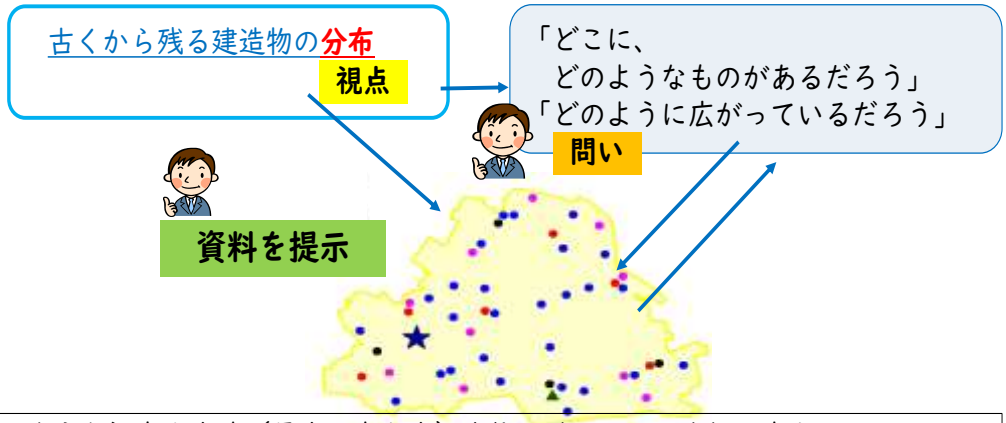
### ⑶　子供たちが自ら社会的事象の見方・考え方を働かせて、問題解決を図る単元デザイン

実際に「子供たちが、自ら社会的事象の見方・考え方を働かせて、問題解決を図る」ように単元をデザインするときに大切なことはどのようなことなのか。それは、以下のように教師が意図的に単元デザインすることが重要である。

単元等で
どのような視点や方法（見方・考え方）を働かせることが大切か考え、
教材の開発・吟味、分析を行い、
社会的事象の見方・考え方を問いや資料、学習活動などに**潜ませるように**計画する

「単元等でどのような視点や方法（見方・考え方）を働かせることが大切か考え」とは、学習指導要領「イ思考力，判断力，表現力等」の記載事項と該当箇所の解説を読み、この内容で「社会的事象の見方・考え方を働かせる」とは、どのようなことか明確にする、ここがスタートである。例えば、前頁の資料１ように整理することである。

次に、「社会的事象の見方・考え方を問いや資料、学習活動などに潜ませるように計画すること」とは、例えば、下図のように、古くから残る建造物の分布に関して、教師が資料として古くから残る建造物の場所が記された市の地図を提示して、「どこに、どのようなものがあるだろう」などと問えば、子供たちは、「分布」という視点で捉えていくことになる。この教師の仕掛けが重要である。




〇どのような視点や方法（見方・考え方）を働かせることが大切か考え
**「古くから残る建造物の分布」に着目して、問いを設けて調べ･･･（分布：視点）**
〇問いや資料、学習活動などに潜ませるように計画することで
**「分布」に着目できる資料を提示して、**
**例えば「どこに、どのようなものがあるだろう」などと問えば･･･**
〇子供が社会的事象の見方・考え方を自ら働かせて
社会的事象の意味を考えていくようになるのではないか

### ３　社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせる

小学校社会科の学習は、資質･能力の育成のために「社会的事象の見方･考え方を働かせ、問題解決的な学習を通す」ことが求められている。さらに、社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせるように単元デザインしていくことで、子供たちの中で社会的事象の見方・考え方が鍛えられ、他の社会的事象に出合ったときに、これまで身に着けた視点と方法で追究を図っていくことになるものと考えられる。子供たちが社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせるためには、教師が意図的に単元をデザインすることが重要になる。その時、その内容だけではなく、内容の系統性を捉えることも重要である。ポイントが二つある。

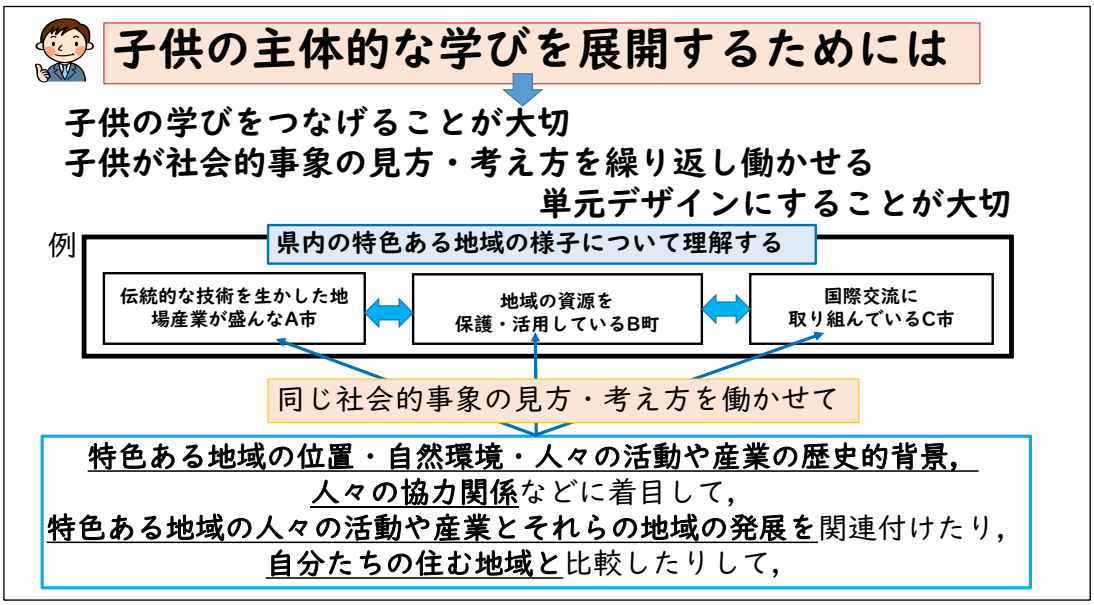
**ポイント①：学習指導要領の内容の中で、いくつかの単元を含んでいるものについて、同じ社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図るものを読み取る。**

該当する内容を例示すると次のようになる。

〇第３学年⑶「地域の安全を守る働き」　　･･･警察署と消防署の働き
〇第４学年内容⑸「県内の特色ある地域の様子」･･･県内の３つの地域
〇第５学年内容⑵「我が国の農業や水産業における食料生産」　　･･･稲作、水産物等
〇第６学年内容⑵「我が国の歴史上の主な事象」　　･･･(ア)～(サ)

例えば、第３学年⑶「地域の安全を守る働き」では、消防署でも警察署でも、同じ社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図ることになる。一般的に学習指導要領の記載事項は一つだが、消防署と警察署の働きを二つの単元として学習することが多い。ここで、子供たちが、社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせて問題解決を図るように意図的に単元デザインをする。例えば、二つの単元の学習を通して単元１の学習を単元２で生かすように設定することを意識して単元を構成すると、学習問題の設定や学習計画も、ほぼ同様に展開できる。その結果、子供たちは、追究の見通しや追究の仕方も同じように考えていくことができ、学びをつなぐことができる。学びがつながることがわかれば、子供たちが主体的に問題解決を図る単元展開が期待できる。

**ポイント②：小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　社会編 P.150,151「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」を参考に、類似した内容や内容同士の関係性、内容の系統性などを読み取る。**

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　社会編 P. 150, 151「小・中学校社会科における内容の枠組みと対象」を読む。例えば、その中の第３学年「市の様子」と第４学年「県の様子」を見ると、学年は違うが、同じ「地理的環境と人々の生活」に区分され、その中でも「地域」に区分される内容であることがわかる。学年は違っても、同じ枠組みなので、内容が類似し、単元展開が似てくることが考えられる。子供たちが「社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせ、問題解決を図る」よう教師が意図的に単元のデザインをする手掛かりとすることができる。

子供たちが、主体的に問題解決を図る単元を教師がデザインするためには、「社会的事象の見方・考え方をくり返し働かせる」ことを大切に授業づくりすることが重要である。なぜなら、子供たちが、学びがつながることを実感することにより、新しい社会的事象に出合ったときに、まずは、今ある社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決を図ろうとする姿が期待できるからである。それが自立した学びの第１歩につながるのではないだろうか。